

# 病気は予防しましょう『まずは消毒から』

## 口蹄疫騒ぎを振り返って

日本で九十二年ぶりに口蹄疫が発生して一年がたちます。ふりかえると、今まで予想もしなかった緊張と不安の数ヶ月でした。台湾では数年前から豚に口蹄疫が流行し、相次ぐ殺処分で飼養頭数が以前の半分以下になっていると聞いていましたが、まさか日本で、しかも宮崎で発生するとは想像もしていませんでした。



口蹄疫は他の伝染病に比べ伝染力が極めて強い。そのた

め第一級の悪性伝染病とされ、最も恐れられています。その病気が宮崎県内に出たというので大騒ぎになりました。感染拡大を防ぐため、二十四時間体制で通行車両の消毒、牛の採血にと動員されました。感染した家畜は殺処分しかありません。感染が広がり、宮崎県には牛豚がいなくなるのではと考えたくらいです。最悪の場合そうなっていたかもしれませぬ。

安全宣言が出るまで、誰もが畜産農家への立ち入りを自粛しました。往診は必要最低限にとどめ、往診するときは、使い捨ての衣服と手袋を身につけ診療し、帰りは長靴を消毒槽で洗い、車のタイヤには消毒薬を散布しました。農家はどこも踏み込み消毒槽を用意していました。そこまでも、感染牛がどこにいるかわからないという状況で「こ

れで消毒は十分だろうか？」と不安になったものです。全国調査もすすみ、予想外に被害も少なく短期間のうちに終息宣言が出されました。日本では、感染力が弱いウイルスだったことが幸いしましたが、台湾ではいまだにおさまっていません。



## 病気予防は消毒から

口蹄疫騒ぎも過去のものとなり、今では踏み込み消毒槽を用意している農家はあります。海外悪性伝染病だけでなく、ウイルス、細菌、寄生虫と伝染病はたくさんあります。よくある下痢症、気管支炎のほとんどが伝染します。定期的に畜

舎を消毒する、踏み込み消毒槽で必ず靴を消毒し病気を持ち込まないようにする、などは病気を防ぐためにもっとも大事なことです。いったん伝染病が侵入するとすぐに広がり、畜舎ばかりか周囲まで汚染しいつまでもなくなりません。養豚、養鶏農家は畜舎から器材まで徹底的に消毒します。踏み込み消毒槽はもちろん、外来者用の長靴を用意し履き替えないと入れないようにしています。それに比べ養牛農家は外来者の出入りは気にしませんし、消毒もあまりしません。

病気予防の基本は消毒です。もう一度あのときを思い出してください。そして少なくとも踏み込み消毒槽は用意しておきましょう。